石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ●　http://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

2018年4月
創立30年を
迎えます

新学長に尾池守教授

石巻専修大学長の新学長に尾池守理工学部教授が就任した。坂田隆学長の任期満了に伴い、2月24日に開かれた学校法人専修大学理事会で選任された。就任は4月1日付で、任期は2019年3月31日までの3年間。就任にあたり尾池新学長が抱負を語った。

教育の強化 改革の推進

石巻専修大学は社会知性の開発と学生を中心にすえた大学運営を基本にしています。本学で学ぶ在学生をきちんと育て、一人前の学士として社会に送り出すことが使命です。全学共通のポリシーとして、輩出したい人物像を『社会の諸問題に、自分の役割を自覚して取り組むために、生涯にわたって学び続けることができる人』と定めました。学生一人ひとりの目的を成就するために、知を育成する教育を行うことで、課題に対して問題点を抽出し、学んだ専門分野の手法を用いて考察し判断できる学生を育てたいと考えます。

本学は、3学部7学科を擁し、学問分野では理学、工学、経営学、文学、教育学、社会学から成っています。幅広い学問分野の魅力を学科間で相互に活用するために、平成29年度の導入を目指してカリキュラムの見直しを図ります。

学科の枠を超えた広がりのある学びは、一層の教育効果が期待できます。

さて、東日本大震災から5年が経過しました。被災者だけでなく、修学意欲はあるものの、経済的な理由で大学進学が困難な生徒がいます。このような現況から、学費の一部を免除できる新たな制度「進学サポート奨学生制度」を導入します。被災地にある本学の姿勢として、大学進学への機会提供により、被災地域の人材育成や地域創生につながることが期待できます。

今後もさまざまな取り組みを推進していきます。皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

（おいけ・まもる）1954年群馬県伊勢崎市生まれ。62歳。82年東京工業大学大学院理工学研究科生産機械工学専攻博士後期課程修了。工学博士（東京工業大学）。科学技術庁航空宇宙技術研究所、東北大学流体科学研究所助教授を経て、2002年石巻専修大学理工学部教授。入学試験委員会委員長、理工学研究科長を歴任。専攻は流体力学、専門は航空宇宙工学。共著『トライボロジーの解析と対策』（03年、テクノシステム）などの著書に加え、多数の論文を発表している。

2016年度入学式

希望を胸に

▲ 275人が新たな一歩を踏み出した入学式

2016年度の石巻専修大学入学式が4月4日、本学体育館で行われた。希望を胸に式に臨んだ新入生は理工学部114人、経営学部112人、人間学部46人の学部生合わせて272人と、大学院生3人。保護者や家族、来賓、教職員の祝福に顔をほころばせ、大学生として一歩を踏み出した。

4月1日に第5代学長に就任し、新入生を迎えた尾池守学長は式辞で、本学の使命を「社会の屋台骨を支え、初めて出合う問題にも適切に対処できる人、すなわち学び続けることができる人を育てること」と説明。本館正面入り口の祈念モニュメントが、東日本大震災で犠牲になった6人の学生をはじめ、本学にゆかりのある方々を追悼するものであることを紹介し、心にとどめてほしいと呼び掛けた。

また、学問の体系を理解し、議論を深めることが大学で学ぶミッションと語り、自身の専門である航空宇宙工学を引き合いに「ロケットは特定の星の位置から自分の今の位置を割り出し、軌道修正しながら宇宙を目指す。皆さんも夢や目標を持ち、5年後、10年後にその夢に近づくために今何をすべきか、未来から現在の自分を見て軌道修正することを身につけてください」と激励。「被災地の最前線にある本学でしかできない経験を積んでほしい」として、ボランティア団体のリーダーに活動の本質を学ぶ「復興ボランティア学講座」の受講や、1年次からのインターンシップ参加を促した。

▶ 誓いの言葉を述べる遠藤さん（右）と猪又さん

日髙義博理事長、亀山紘石巻市長の祝辞に続き、大学院総代の猪又直文さん（経営学研究科修士課程経営学専攻）、学部総代の遠藤楓さん（人間・宮城県石巻北高）が誓いの言葉を述べた。

猪又さんは「大学院生はさらに研鑽（けんさん）し、切磋琢磨することにより社会の進展に寄与する役割を担う。私は我が国の全企業の97％を占めるファミリービジネスの研究を行い、自らの企業経営に役立てたい」と研究への熱意と決意を表明した。

◀ 緊張した面持ちの新入生

遠藤さんはほおを紅潮させ「喜びと期待とともに不安もあるが、志を胸に新生活を送りたい。東北そして日本を支えていく一員であることに自覚を持って、日々努力します」と宣誓した。

閉式後、新入生ガイダンスや学科ごとに分かれて教員紹介や学生・保護者懇談会などを実施。また、専修大学の4人の創立者の青春時代を描いた創立130周年記念映画『学校をつくろう』の上映会も開かれた。

キャンパスは、あいにくの雨を吹き飛ばす初々しい熱気に包まれた。

新入生オリエンテーションセミナー

日本三景の一つ、松島で行う恒例の新入生オリエンテーションセミナーが4月7日から1泊2日の日程で、ホテル松島大観荘（宮城県松島町）で開催された＝写真。

大学生活にスムーズに適応してもらうのがねらい。緊張気味だった新入生たちは、自己紹介やオリエンテーリングを通じて次第に打ち解け、リラックスした表情に。学科ごとに教員から講義内容の説明を受け、時間割を作成した。学生会主催のサークル紹介もあった。翌日は大学生としての自覚を深めた表情で景勝地を散策していた。

理工学研究科長 島田教授が就任

大学院理工学研究科の新研究科長に島田了八教授が就任した。就任は4月1日付で任期は1年。

島田　了八（しまだ・りょうはち）工学博士。山形大学工学部機械工学科卒業。東北大学助教授を経て、1989年本学助教授。96年教授。理工学部機械工学科の学科主任教授、工作センター長などを歴任。主な担当は「熱力学」「応用熱工学」。

新専任教員

新たに2人が専任教員となった（4月1日付）。各教員の氏名、職種、主な担当科目は次の通り。（敬称略）

【理工学部】

亀山（かめやま）　充隆（みちたか）
教授「情報システム概論」「情報電子工学実験」

劉（りゅう）　忠達（ちゅうたつ）
助教「コンピュータ概論」「情報電子工学実験」